

コロナ・オミクロン株後遺症 睡眠障害・倦怠感大幅増

新型「コロナウイルスの感染症法上の類型引き下げが決まる中、オミクロン株感染による後遺症の深刻さを示すデータが出ています。岡山大病院の調査では、睡眠障害や倦怠（けんたい）感がデルタ株よりも大幅に増えました。後遺症は長期化傾向も指摘されており、専門医は「季節性

インフルエンザと同じ5類に移行後も油断せずに感染対策を続けて」と語ります。岡山大病院は、2021年2月～22年12月に同病院の後遺症専門外来を受診した12都府県の5226人からの訴えを分析。オミクロン株の症状をデルタ株などの場合と比較しました。オミクロン株では

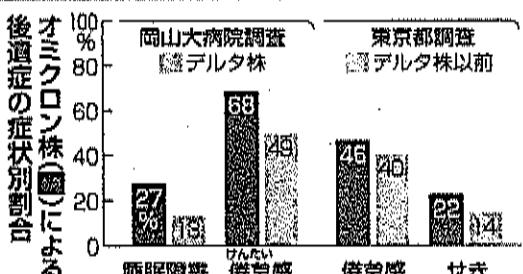
睡眠障害を訴える割合が27%に上り、デルタ株(13%)などの2倍を超えました。布団に入つても寝付けない入眠障害や、夜中に目が覚めた後に眼れない由途覚醒が目立ちます。

倦怠感は68%で、デルタ株より19%高く、睡眠障害があると倦怠感や頭痛が出やすい傾向もありました。頭の中

状態で集中力や記憶力が低下する「フレンチフォグ」は3割で、モルタ株より8倍高い。大塚文男副院長は「感染しないことが最大の後遺症予防策だが、もし後遺症と思ったら病院などで診療を受けた院などで「診療を受けたほし」と話します。

一方 東京都がオミクロン株流行後に陽性

が判明し、後遺症が認められた119人を調べた結果、症状の最多は倦怠感(46%)で、午後株以降より6歳以上がいました。せきが8歳未満の22%で続きましたが、悪切れや嗅覚障害



音、味覚障害は次第に
ました。山形県の調査
でも、症状は倦怠感が
最多でせきが続くな
ど、ほぼ同様の結果が
出ました。

後遺症疑いの患者を50000人以上診察したヒラハタクリニック（東京都渋谷区）の平畠光一院長は「オミクロン株は軽症で済む」とされるが後遺症の重さは変わらず、倦怠感を訴える割合も依然高いい」と指摘。「後遺症化予は感染者の1割がかかる」とされる。重症化予防のため、特に感染後2カ月間は無理せず、に休んでほしい」と話